

授業科目 支援機器 I (移動機器)

【担当教員名】 前田 雄、加島 守		対象学年	2	対象学科	義肢
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○			
【概要・一般目標：GI0】 移動機器についての理解を深め、利用者に適した移動機器の選択をするために、機能評価、用具の操作方法を学ぶ。また代表的な移動機器である車いすの理解を深める為、評価、適合について学びさらに分解、組み立て、調整について学ぶ。 利用者の QOL を上げるために以下の事柄を学ぶ： - 移動福祉機器の対象者・種類・機能・構造・工学的基礎・技術変遷・今後の動向 - 車いすの適合性・安全性 - 障害の種類と車いす - 昇降装置、介護リフト また、専門用語について学ぶ。					
【学習目標】					
1. 移動機器の種類、定義、役割について説明できる。 2. 利用者に適した移動機器を選択できる。 3. 移動機器（車いす）の工学的基礎・構造が説明できる。 4. 車いすの分解組立、調整ができる。 5. 移動機器の選択、適合に必要な利用者の姿勢の評価ができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	移動機器概論			1	講義
2	基本姿勢			2, 5	講義・演習
3	姿勢評価			2, 5	講義・演習
4	移動機器の工学的基礎			3	講義
5	移動機器の選択、操作方法			2	講義・演習
6	移動機器の採寸と適合・評価・介助			2, 5	講義・演習
7	車いすメンテナンスの基礎知識			4	実習
8	車いすメンテナンスの基礎知識			4	実習
9	車いすの分解			2	実習
10	車いすの分解			4	講義と質疑応答、演習
11	車いすの組立			4	講義と質疑応答、演習
12	車いすの組立			4	講義と質疑応答、演習
13	車いすの調整			4	講義と質疑応答、演習
14	電動車いす			1	講義・演習
15	まとめ 注：9, 10, 11, 12「車いすの分解・組立」3限－5限の連続時間とする。				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		1) 車いすのヒューマンデザイン Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology 板書、プリント 福祉技術入門	田中 理、大鍋寿一監訳 R. A. Cooper, H. Ohnabe, D. A. Hobson 後藤芳一、足立芳寛	医学書院 Taylor and Francis Ohmsha	2000・4,500円 2006・\$69,95 1998・4,515円
その他の資料					
【評価方法】 最終試験 80%、小テスト 10%、レポート 10%			【履修上の留意点】 原則、授業の 1/3 を欠席した者は、科目評価資格を失うものとする。また欠席 1 回につき - 5 点、遅刻 1 回につき - 2 点、遅刻 2 回につき - 5 点を、最終評価から減点する。		